



コロナパンデミック後の新たな ICU を 目指して！

特定集中治療部 部長 蒲原 英伸

コロナパンデミックが宣言されて、約 4 年が過ぎようとしています。社会情勢は徐々に通常化され、海外からの観光客も日本に再び訪れる光景を目にするようになってきました。

ICU に関する諸問題について、今回のパンデミックを契機に一般の方々に初めて認識された所であります。人手や病床不足については即解決することは難しいので、次世代に向けて長期的展望で対応していければと現在考えています。

パンデミックで診療・移動が制限され、その間 IT を活用したネットワークが社会に広がりましたが、当院 ICU の近未来的な目標としてリアルタイムな情報を共有できるよう病院内外における遠隔 ICU 体制の構築を思案している所です。その先はネットを活用した家族と患者を容易にアクセスできるような仕組みへと発展できればと考えています。

今回のパンデミックの経験をバネに更に質の高い ICU(診療・教育・研究)を目指していきます。

ICU 退室後、一般病棟で長期間人工呼吸施行(気管切開下)の患者さんを車椅子にのせ、病院内窓から冬の澄んだ青空の見える場所へ移動中



手指の消毒・マスク着用

にご協力お願いします

